

はせさんず

2015 冬号 NO.72

三二一ス

2015年11月24日 (火) 発行
 認定NPO法人
 たすけあい 大田はせさんず
 理事長 佐藤 悟
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず (会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーズデーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元氣かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

障害者総合支援法

相談支援事業のこれから

平成25年4月に施行された障害者総合支援法では、すべての障害者(児)に対して、計画相談支援(以下、計画相談)を実施することとされており、計画相談とは、障害福祉サービスの利用の相談や計画作成、モニタリングなどを行い、障害者(児)の自立した生活を支え、適切なサービス利用に向けて支援するもので、一般的な相談支援事業とは区別されるものです。計画相談を行う指定特定相談支援事業所で相談支援専門員(以下、相談員)を務める鈴木啓太さんと茂野俊哉さんを迎えて、相談支援全般について話し合いました。



鈴木 計画相談とジェントなので、チーム支援のなかで、通所事業所など連携しながら、支援しているが、連携が難しいときもある。

矢嶋 特定相談支援事業所は、計画作成かモニタリングをしてこそ報酬が出る。基本相談や訪問だけの場合は無報酬。専従の出席者 写真左から 鈴木啓太さん(特定非営利活動法人風雷社中 事業所管理者) 矢嶋早苗(はせさんず事業所統括) ステーション責任者)

平成25年4月に施行された障害者総合支援法では、すべての障害者(児)に対して、計画相談支援(以下、計画相談)を実施することとされており、計画相談とは、障害福祉サービスの利用の相談や計画作成、モニタリングなどを行い、障害者(児)の自立した生活を支え、適切なサービス利用に向けて支援するもので、一般的な相談支援事業とは区別されるものです。計画相談を行う指定特定相談支援事業所で相談支援専門員(以下、相談員)を務める鈴木啓太さんと茂野俊哉さんを迎えて、相談支援全般について話し合いました。

相談員を配置し、質を確保するために利用件数を抑制して相談の対象外の人にも基幹相談支援で対応してほしい。



鈴木 チームで障害者を支援するとき、中心に相談員がい

鈴木 現在は補助金があるの

鈴木 計画相談を必要とする人が、

江波戸宏さんの話
 10月23日(金)

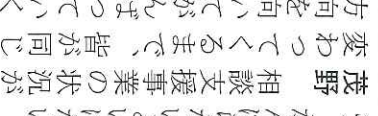
大田区の障害者の相談業務を総合的に行う施設として

事業所の採算性

基幹相談支援と人材育成

鈴木 現在、障害福祉サービスの利用が、

計画相談について、僕らが何をすべきか考える時期だと思



鈴木 チームで障害者を支援するとき、中心に相談員がい

鈴木 現状はそこまでできていないので、

鈴木 移行支援利用の障害者

鈴木 移行支援利用の障害者

鈴木 移行支援利用の障害者

鈴木 移行支援利用の障害者

鈴木 移行支援利用の障害者

鈴木 移行支援利用の障害者

ヘルパー活動日記

那須 憲子

15年前にヘルパー2級の資格を取ったのは、両親の将来の生活の支えになるかという思いからでした。その両親だけをヘルパーをめざしていたが、今年、卒寿と米寿を迎え、老いは進んだものの大病もせず実家で暮らしています。できるだけ住み慣れた家で自分たちのペースで生活したいという両親の希望もあり、今は私が掃除・買い物・通院の付き添いに通っていますが、もし地域のヘルパーさんをお願いするようになったら、娘としてどんな方に来てほしいか考えることがあります。自分かその希望に叶うかと言



え、まだまだ合格点はもらえません。病を得て思うような生活ができない利用者さんの心身の格を心配する。11月7日(土)、平和の森公園で開催された大田ふれあいフェスタに参加。予報は曇りでしたが、私たちが後押しするように快晴となり多くの来場者がありました。1日だけの出店で品数も例年の半分ほどでしたが、売上は29万5千円となりました。2人とも週3日ずつ勤務し

大森第四中学校2学年タカナ混じりの若者の歌でも利用者は楽しそうに過ごしました。体験後の感想は「僕たちが区職員にNPO団体の現場を体験してもらっています。今年にはせきんずには8月末から10月にかけて、12日間それは狭い視点だと気付かされた、NPOにも目を向けて広い視野で見えていき今年の研究は地域福祉課や出張所の職員が多く、NPOや区民活動団体の活動を知ってもらうにはいい機会でした。」



利用者といっしょに外出



え、まだまた合格点はもらえません。病を得て思うような生活ができない利用者さんの心身の格を取ったのは、両親の将来の生活の支えになるかという思いからでした。その両親だけをヘルパーをめざしていたが、今年、卒寿と米寿を迎え、老いは進んだものの大病もせず実家で暮らしています。できるだけ住み慣れた家で自分たちのペースで生活したいという両親の希望もあり、今は私が掃除・買い物・通院の付き添いに通っていますが、もし地域のヘルパーさんをお願いするようになったら、娘としてどんな方に来てほしいか考えることがあります。自分かその希望に叶うかと言



ていまして、区の職員が来てくれたことにより、印象をもったように、大田区職員現場研修6年ほど前から行政とNPOの協働をテーマに大田を体験してもらっています。今年にはせきんずには8月末から10月にかけて、12日間それは狭い視点だと気付かされた、NPOにも目を向けて広い視野で見えていき今年の研究は地域福祉課や出張所の職員が多く、NPOや区民活動団体の活動を知ってもらうにはいい機会でした。」

2016年版
A4サイズ 1部700円
お申込は、事務局まで
写真は2015年版

フリーマーケット
11月7日(土)、平和の森公園で開催された大田ふれあいフェスタに参加。予報は曇りでしたが、私たちが後押しするように快晴となり多くの来場者がありました。1日だけの出店で品数も例年の半分ほどでしたが、売上は29万5千円となりました。2人とも週3日ずつ勤務し

はせさんず各部門スタッフより 聞いて！ 聞いて！

会員制たすけあい活動
移送サービスは、利用者も活動者もともに会員同士という立場で運営されています。チケット収入やご寄付は大きな法人の運営費になります。移送活動を行う際は活動者一同、利用者さんに不安な思いをさせないよう研修を重ね、常に安全運転を心がけています。通院が優先ですが、親戚訪問、食事会・買物等のさまざまなご用の依頼にも対応できます。ゆとりをもって2～3日前までには依頼をお願いします。(金子文一)

ヘルパーステーション
障害、特に知的障害の方への支援において、利用者は自分の気持ちや伝えたいことが多く、支援者がどれくらい取ることができているかが大切です。利用者の思いに沿うことができた時、たとえばコンピュータで買物が見えたり、やってみようと思えるのです。そういう経験の積み重ねが支援の向上にもつながると思います。(内海玄宗)

ケアサポート
10月7日、国際福祉機器展2015を見学。何しろ広い会場、いくつかにポイントを絞って回りました。ご利用者の身体状況を思い浮かべながら、ブースの担当者に質問したり、最新の福祉機器のパネルレットをもらったり。在宅生活で慣れた環境を変えたいには、小さい用具一つで、楽になる、おいしくなる、危険が減る、心地よく

デイホーム
数あるデイホームの中でも外出プログラムを毎日提供するの、わがデイホームならではの特徴といえます。場所選択は安全第一、2時間のジョイントリッヅ。行動範囲が狭くなった利用者にとのできない季節の移動を、五感の刺激を心がけています。「お出かけは楽しいよ。また連れてきてね」利用者の晴れやかな笑顔に「はい、もちろんです！」気の抜けない緊張した時間が一気に報

元気かい
11月18日、ピアノデュオコンサートを下丸子プラザで開催。参加者80名。今回で15回目となるが毎回、選曲から演奏までしてくださるピアノストの長松谷幸生さん、中島園枝さん、ラフマニノフなどのピアノソロ曲。さらにサウンド・オブ・ミュージックなどの連弾。日々の忙しさを忘れ、ピアノの音に酔いしれる至福のひと時を過ごします。「芸術と遊ぶ」ことも介護予防として継続していきたい。(佐藤晋)